

令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 企救丘 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和5年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。(熱中症等の予防の観点から、20mシャトルランについては、5月中旬から6月上旬に実施しています。)

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知りたいとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部分です。

I. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

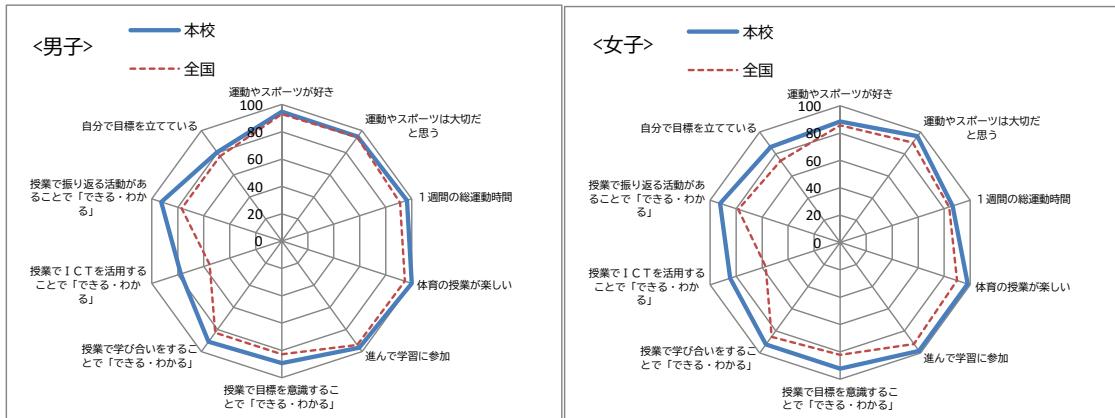
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.13	19.00	33.98	40.60	46.92	9.48	151.13	20.52	52.59
本市	16.30	19.17	34.49	40.75	49.29	9.48	152.47	21.39	53.38
本校全国平均以上の種目	○	○			○		○	○	

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.01	18.05	38.45	38.73	36.80	9.71	144.29	13.22	54.28
本市	16.35	18.36	38.88	38.78	39.26	9.70	145.97	13.51	55.18
本校全国平均以上の種目	○								

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

- ・本校では、男女問わず全ての調査結果において、全国平均より肯定的な回答をしている児童の割合が多い。特に、「体育の授業が楽しい」は、男子が100%、女子が98.1%と肯定的な回答をしており、体育の授業に大変意欲的に参加している。
- ・体育科の学習で、ICTを活用し、友達に自分の技や動きを動画で撮影してもらって、自分の活動の様子を客観的に捉えることで、よりよい体の動きを動画で確認することができるようになった。その結果、「授業でICTを活用することで『できる・わかる』」と肯定的に回答した児童が、男子で22.2%、女子で27.4%と、全国平均を大幅に上回った。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 児童が自ら考え選択し、お互いに学び合いながら学習できる授業づくりを目指し、以下の項目を重点的に行う。
- ①一人一人の意欲を高める教材開発を行う。
 - ②各学級で、体育科の学習の始めに、基礎的な運動能力を高める運動を毎回行い、継続的に運動能力を高めていく。
 - ③「できない」から「できそう・やってみたい」へと導く、個に応じた場づくりを設定する。
 - ④一時間の学習を振り返り、次の学習につなげる学習カード等の指導方法の工夫を行う。
 - ⑤高学年では、教科担任制のよさを生かした専門的な指導による、より深い学びを推進する。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

- ・前期には、体力テストの取組、後期には休み時間になわとびタイムや持久走を行うなど、時期に応じて、体力を高める活動を行う。また、委員会活動によるスポーツ集会等を通じて外遊びを推奨し、休み時間に外に出て遊ぶ機会を増やすことで、運動の日常化を図る。